

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5 年 2 月 24 日

事業所名 スポーツコミュニケーションスクール カラフル・金沢 西金沢

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	✓		レイアウトを随時見直している。様々な活動に合わせた環境設定を行っている。利用人数が多い場合は時間をずらしている。	利用者の相性や活動内容によるレイアウトの工夫など行っていきたい。
	2 職員の配置数は適切である	✓		集団のプログラムを提供しているが、個別での対応も意識して配置している。	専門的で利用者に応じたきめ細やかな支援のため、今後も募集はしていきたい。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	✓		事業所内では、活動時間を書き出す、イラストや写真を使って次の行動が目で見えるように工夫している。	目で見てわかる動線を意識していく。また、事業所がビルの2階のためバリアフリー化されていないのが現状。必要場合は職員が階段の上り下りを補助し、安全に配慮していく。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	✓		食事やおやつの後には掃除を行い、清潔にしている。	定期的に事業所内のレイアウトの見直しを行っていく。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	✓		毎月のミーティングや研修を行っている。	PDCAを心掛け、月に1度のスタッフミーティングを行っている。毎日の申し送りでも共有している。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	✓		適宜アンケートをとり、保護者からの意見を参考にさせていただいている。	今回の保護者向け評価表も活用し、今後も以降の把握に努めていきたい。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	✓			ホームページにて公開している。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		✓		現在は利用者と社内の評価のみになっているが、今後必要に応じて実施を検討していく。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	✓		各種研修には積極的に参加している。	外部研修のほか、事業所内での研修も実施し参加していく。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	✓		保護者の方に伺い作成している。	契約時や送迎時に利用者の様子を共有したり、ご希望などを伺っている。
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		✓	同系列の他事業所と同じ形式で行っている。	他事業所とも相談し、随時アセスメント票の見直しを行っていく。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている		✓		具体的な支援内容になるように見直しを行う。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	✓		支援会議で計画書はスタッフ全員で共有している。	モニタリング時に支援の方向性は再確認している。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	✓		毎月スタッフの担当者が検討し共有している。	保護者からの要望も取り入れながら、随時検討していく。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	✓		年度でテーマを決め、内容は毎月検討している。	保護者からの要望も取り入れながら、随時検討していく。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	✓			利用児童の希望や特性も考慮しながら計画書を作成していく。
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	✓		前日の申し送りや当日の役割分担などを確認するミーティングを行っている。	勤務時間との兼ね合いもあり、翌日に抜けがないように打ち合わせを行っていく。
18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	✓		終了後に打ち合わせは行っており、翌日のミーティングで行っている。		

適切な支援の提供	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	✓		業務の記録をとっている。	日々の記録は行っているがまだまだ支援での改善は必要と思われるため検討していきたい。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	✓		モニタリングを行い支援会議を行っている。	半年に1度モニタリングと支援会議を行い、個別支援計画書の見直しなどを検討している。
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	✓			開催される場合には児童発達支援管理責任者等の適任者が出席している。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	✓		必要に応じ連携している。	随時情報共有を行っていく。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			該当者はいない。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			該当者はいない。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	✓			相談支援専門員を介して、情報の共有を行っている。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	✓			相談支援専門員を介して、情報の共有を行っている。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	✓		石川県療育センターの助言を受け、児童との関わりについて学んだ。	今後も積極的に研修に参加していく。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	✓		機会はない。	今後は各種イベントなどを企画し、地域での活動にも力を入れていきたい。
関係機関や保護者との連携	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	✓			3月にある連絡会に参加予定。今後定期的に参加していく。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	✓		保護者とのやりとりは行っている。	モニタリングの面談の他、送迎時に児童の様子について共有している。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	✓		保護者支援は行っていない。	今後保護者から対応力について質問があった際、どうするか検討していく。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	✓			契約時に説明し、随時不明な点は職員が説明するようにしている。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	✓		ガイドラインを確認している。	支援内容の説明を行い同意は得ている。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	✓		相談には対応している。	送迎時や面談時に相談を受けることがあり、お話はさせていただいている。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		✓		来年度から取り組みを行う予定。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	✓		苦情対応窓口はある。	苦情やご意見があった際は迅速かつ適切に対応するように努めている。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	✓			活動予定や活動報告を会報でお知らせしている。公式ラインを導入し情報を発信している。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	✓			個人情報のファイルなどは鍵付きの棚で管理している。
保護者への説明責任等						

保護者への説明責任等	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	✓		児童や保護者の状態に合わせて対応をしている。	事前に保護者や関係者と情報伝達方法を話し合い、職員間で共有している。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	✓		他事業所との合同イベントを行った。	今年度は感染拡大防止のためあまり積極的には開催できなかったが、今後は地域の中の事業所として可能な形で開かれた事業運営に努めていく。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	✓		緊急時対応マニュアル、感染症マニュアルは策定している。	各種マニュアルは策定しているが、保護者にもうけて行っていないので、今後は周知を図っていく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	✓		年2回避難訓練を行っている。	年2回避難訓練を行うよう年間スケジュールに入れている。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	✓		アセスメントの聞き取り時に服薬や病院受診の情報は確認を行っている。	予防接種の情報共有は行っていないので、今後検討する。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	✓		保護者からの情報を基に対応している。	アセスメントや保護者の方からの情報を基におやつやクッキングなどの対応を行っている。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	✓		ヒヤリハット行っている。	事例集になるほど事例ができていないが、今後も行っていく。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	✓		事業所内での虐待防止委員会主催の研修会を行っている。	事業所内、外共に積極的に研修に参加し職員間で共有している。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	✓		身体拘束があり得る場合は計画に記載することになっている。	多動の方で危険が伴う場合には計画に盛り込むようにしているが、現在対象児童はいない。対象児童がいる場合には組織的に対応を検討し、支援計画に記載する体制にしている。

